

2022.6.27

Dance Base Yokohama

パフォーミングアーツ・セレクション2022 開催のご案内

～日本を代表するダンスアーティストらがコロナ禍に創作したダンス作品を全国で上演～

2022年秋、日本を代表する振付家たちがコロナ禍に創作した選りすぐりのダンス作品を、全国の劇場で上演します。演目は、ダンスの歴史にフォーカスをすることでダンスの「継承」と「再構築」の2つの視座からプログラムを構成した「ダンスの系譜学」より安藤洋子、酒井はな、中村恩恵、そしてコロナ禍で懐いた「わたしのからだはわたしのものか?」という問いへの回答として創作された「鈴木竜トリプルビル」より2作品。

2020~21年にダンスハウス「Dance Base Yokohama (DaBY)」で創作し、愛知県芸術劇場で初演を迎えたこれら5作品のなかから、各会場で2~3作品をセレクトしたショーケース形式のツアーを行います。

本プロジェクトは、全国の公立劇場と連携して開催します。詳細は、下記の通りです。

	公演日	会場	上演プログラム	主催
高知公演	9月8日(木)	高知県立美術館 ホール	『瀕死の白鳥』/『瀕死の白鳥 その死の真相』 『BLACK ROOM』/『BLACKBIRD』よりソロ 『MOVING SHADOW』/『Study # 3』よりデュオ	高知県立美術館(公益財団法人高知県文化財団)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
長野公演	10月7日(金)	まつもと市民芸術館 実験劇場	『瀕死の白鳥』/『瀕死の白鳥 その死の真相』 『When will we ever learn?』	一般財団法人松本市芸術文化振興財団
福島公演	10月15日(土)	いわき芸術文化交流館 アリオス 中劇場	『瀕死の白鳥』/『瀕死の白鳥 その死の真相』 『BLACK ROOM』/『BLACKBIRD』よりソロ	いわき芸術文化交流館アリオス、 公益社団法人全国公立文化施設協会
新潟公演	10月30日(日)	りゅーとぴあ 新潟市民 芸術文化会館 劇場	『瀕死の白鳥』/『瀕死の白鳥 その死の真相』 『BLACK ROOM』/『BLACKBIRD』よりソロ 『When will we ever learn?』	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団、 公益社団法人全国公立文化施設協会
東京公演	11月1日(火)~ 11月2日(水)	吉祥寺シアター	『never thought it would』 『When will we ever learn?』 『瀕死の白鳥』/『瀕死の白鳥 その死の真相』	Dance Base Yokohama 提携:吉祥寺シアター
熊本公演	11月27日(日)	熊本県立劇場 演劇ホール	『瀕死の白鳥』/『瀕死の白鳥 その死の真相』 『BLACK ROOM』/『BLACKBIRD』よりソロ 『When will we ever learn?』	公益財団法人熊本県立劇場、 公益社団法人全国公立文化施設協会
山口公演	12月11日(日)	山口情報芸術センター スタジオA	『瀕死の白鳥』/『瀕死の白鳥 その死の真相』 『BLACK ROOM』/『BLACKBIRD』よりソロ 『MOVING SHADOW』/『Study # 3』よりデュオ	公益財団法人山口市文化振興財団、 公益社団法人全国公立文化施設協会

高知公演:

文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)「JAPAN LIVE YELL project」



福島公演、新潟公演、熊本公演、山口公演:

文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)「公文協アートキャラバン事業 劇場へ行く2」

OUTLINE

名称	パフォーミングアーツ・セレクション2022
日程	2022年9月8日(木)～12月11日(日)
会場	高知県立美術館ホール、まつもと市民芸術館、いわき芸術文化交流館アリオス、 りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館、吉祥寺シアター、熊本県立劇場、山口情報芸術センター
詳細	https://dancebase.yokohama/event_post/performing_arts_selection2022 ※各会場に関する情報は、決定次第、随時更新いたします。
企画・共同製作	愛知県芸術劇場、Dance Base Yokohama
制作協力	Dance Base Yokohama

PRODUCTION STAFF

プロデュース/コンセプト：唐津絵理（愛知県芸術劇場/Dance Base Yokohama）

プロダクションマネージャー：世古口善徳（愛知県芸術劇場）

舞台監督：河内崇、湯山千景、小黒亜衣子

照明デザイン：伊藤雅一（RYU）

音響デザイン：牛川紀政

舞台協力：愛知県芸術劇場舞台技術部

制作：宮久保真紀（Dance New Air）、田中希（DaBY）、宮田美也子（DaBY）

尚、本事業は、プロフェッショナルなダンス環境の整備、ダンスを社会に拓くことを目的として2020年に設立したDaBYが、愛知県芸術劇場との提携の元で企画したものです。

DaBYは、今後も全国の劇場や見本市などとの連携を行うことで、ダンスアーティストの創作活動の支援を続けて参ります。

PROGRAM

公演写真撮影: 羽鳥直志

「ダンスの系譜学」

…ダンスの歴史にフォーカスをすることでダンスの「継承」と「再構築」の2つの視座からプログラムを構成した公演。2021年10月に愛知県芸術劇場にて初演。

世界中のバレエダンサーが踊り続けてきたフォーキン原作による『瀕死の白鳥』。本公演では日本を代表するダンサーの酒井はなが、演劇作家の岡田利規と取り組んだ新解釈バージョンを上演。白鳥の死因に迫ることでバレエの様式を解体し、現代のパフォーミングアーツの新たな局面を切り開く。

『瀕死の白鳥』

ミハイル・フォーキン原型 酒井はな改訂

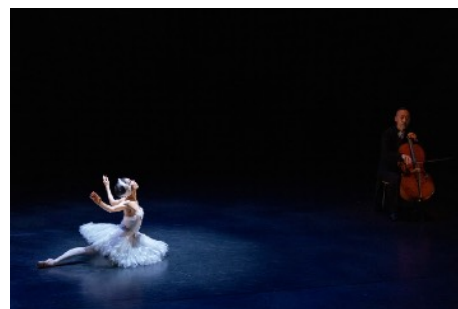
出演: 酒井はな

チェロ: 四家卯大

音楽: サン=サーンス「動物の謝肉祭」から「白鳥」

初演: 1907年(マリインスキー劇場 [サンクトペテルブルク、ロシア])

もしくは 1905年(貴族会館ホール)



『瀕死の白鳥 その死の真相』

演出・振付: 岡田利規

出演: 酒井はな

編曲・チェロ: 四家卯大

音楽: サン=サーンス「動物の謝肉祭」から「白鳥」よりアレンジ



言葉にならなかった声に耳を澄ませた中村の新作『BLACK ROOM』と、キリアンが中村のために振り付けた『BLACKBIRD』よりソロの場면을上演。闇の中から生まれ落ちた新たな生命を想起するような連作、2作品を併せて上演する。

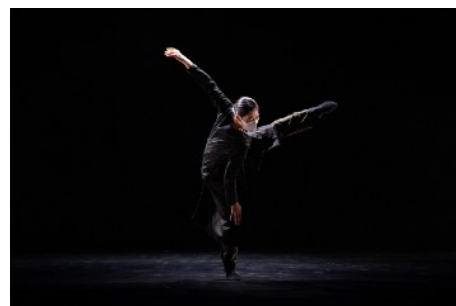
『BLACK ROOM』

振付・出演: 中村恩恵

音楽: デイルク・ハウブリッヒ

衣裳: 串野真也

テキスト提供協力: 安藤洋子、酒井はな、島地保武、串野真也、四家卯大、木ノ内乃々、唐津絵理、世古口善徳、伊藤雅一、牛川紀政、小黒亜衣子、宮久保真紀



『BLACKBIRD』よりソロ

振付・舞台・衣裳・照明コンセプト: イリ・キリアン

出演: 中村恩恵

音楽: ジョージアの伝統的な音楽

衣裳デザイン: ヨーク・フィッサー

初演: 2001年(彩の国さいたま芸術劇場[埼玉、日本])、

2001年(オランダ・ダンス・フェスティバル[ハーグ、オランダ])



2022.6.27

宮沢賢治の「春と修羅」をモチーフに創作した安藤洋子の『MOVING SHADOW』は、オーディションで見出された2名の若手ダンサーと約2年のクリエイションを経て誕生した新作。本作品とともに、フォーサイス『Study # 3』の作品の最後にあたる島地保武との即興デュオを、連続上演する。

『MOVING SHADOW』

振付・出演: 安藤洋子

出演: 木ノ内乃々、山口泰侑

音楽: 岡直人

声: 二河茉莉香

衣裳: サトウエミコ

協力: マユミキノウチバレエスタジオ、横山真以、畑珠希



『Study # 3』よりデュオ

振付: ウィリアム・フォーサイス

出演: 安藤洋子、島地保武

音楽: トム・ウィレムス

初演: 2012年(テアトログランデ[ブラシア、イタリア])



「ダンスの系譜学」

コンセプト・構成・プロデュース: 唐津絵理 (愛知県芸術劇場 / Dance Base Yokohama)

プロダクションマネージャー: 世古口善徳 (愛知県芸術劇場)

照明デザイン: 伊藤雅一 (RYU)

音響デザイン: 牛川紀政

制作: 宮久保真紀 (Dance New Air)、田中希 (Dance Base Yokohama)

初演: 2021年10月(愛知県芸術劇場)

企画制作: Dance Base Yokohama

共同製作: Dance Base Yokohama、愛知県芸術劇場

協力: 株式会社 precog

「鈴木竜トリプルビル」

…コロナ禍で懐いた「わたしのからだはわたしのものか？」という問いへの3つの回答として創作された3作品。2021年12月に愛知県芸術劇場で初演。今回はこのうち2作品に新たなダンサーを加え、ダブルキャストで上演する。

日本、イギリス、オランダ、イスラエル等の国内外で活躍したきた同世代のダンスアーティスト4名がクリエイションに参加した新作。「振り付ける」という非対称的な行為を通して、ダンサーの身体を通じて記憶することで「非対称的な関係におけるコミュニケーションモードとしてのダンス」を提示する。

『When will we ever learn?』

演出・振付: 鈴木竜 (Dance Base Yokohama)

出演: 飯田利奈子、柿崎麻莉子、鈴木竜、中川賢 / Ikuma Murakami [ダブルキャスト]

ドラマトウルク: 丹羽青人 (Dance Base Yokohama)

照明デザイン: 伊藤雅一 (RYU)

音響デザイン: 牛川紀政

衣裳: 渡辺慎也



コロナ禍でより一層不在感を感じつつある社会的な身体の外として、踊ることに取り憑かれているダンサーの身体を扱った作品。からだの不在はダンサーの不要を意味するのか、今の時代に踊り続けるダンサーの必然性にいかなる価値を見出すことができるのかを問う。

『never thought it would』

演出・振付・出演: 鈴木竜 (Dance Base Yokohama)

出演: 柿崎麻莉子 [ダブルキャスト]

音楽: Alva Noto

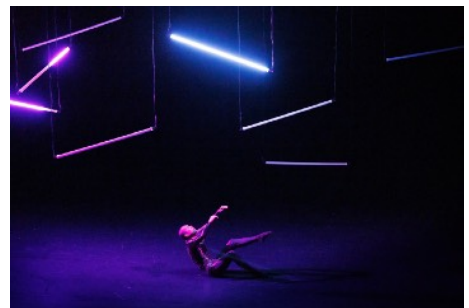
音楽編集: 岡直人

ドラマトウルク: 丹羽青人 (Dance Base Yokohama)

舞台美術: 宮野健士郎

照明デザイン: 武部瑠人

衣裳: 渡辺慎也



「鈴木竜トリプルビル」

プロデュース: 唐津絵理 (愛知県芸術劇場 / Dance Base Yokohama)

プロダクションマネージャー: 世古口善徳 (愛知県芸術劇場)

照明デザイン: 伊藤雅一 (RYU)

音響デザイン: 牛川紀政

制作: 田中希 (Dance Base Yokohama)

初演: 2021年12月 (愛知県芸術劇場)

企画制作: Dance Base Yokohama

共同製作: Dance Base Yokohama、愛知県芸術劇場

PROFILE

『MOVING SHADOW』

演出・振付・出演：安藤洋子 出演：木ノ内乃々 山口泰侑



©Dominik Mentzos

安藤洋子 Yoko Ando

DaBYゲストアーティスト

横浜生まれ。木佐貫邦子に師事。2001年よりフランクフルトバレエ団 (Ballett Frankfurt) にアジア人として初めての入団を果たす。04年 フランクフルトバレエ団解散後も引き続きザ・フォーサイス・カンパニー(The Forsythe Company) に在籍し、15年のカンパニー解散までの15年間、中心ダンサーとして、世界各国の舞台で踊り、フォーサイスの40作品に出演。01年以降、カンパニーの活動以外では、自身が作/演出/出演するダンス作品発表のほか、国内外の音楽家や現代美術家等とのコラボレーション、メディアテクノロジーを使ったダンスの創作と教育などにも積極的に取り組んでいる。現在、象の鼻バレエプロジェクト、神奈川県共生共創事業などのプロジェクトリーダーを務めている。



木ノ内乃々 Nono Kinouchi

DaBYレジデンスダンサー

3歳よりマユミキノウチバレエスタジオでクラシックバレエを学ぶ。国内のバレエコンクールにて第一位を多数受賞。2015年よりワシントンバレエスクール、ベルリン国立バレエスクールに留学。帰国後日本に拠点を移し、2019年以降、安藤洋子、遠藤康行、白井晃、中村しんじ等の作品他、ソロでPOLA Apex ブランドムービーに出演。近年は、ソロ作品『from before』(2021)、『sarabande』(2022)を発表する等、振付にも意欲的に取り組んでいる。



山口泰侑 Taisuke Yamaguchi

DaBYレジデンスダンサー

5歳でダンスを始め、スタジオSRN GOLDRUSHでHIPHOP、ブレイキングを学ぶ。その後、二松學舎大学附属高等学校ダンス部に入部しPOPを学び、現在、洗足学園音楽大学ダンスコースに在学中。二松學舎大学附属高等学校ダンス部でコーチとして後輩の育成を行っている。

『Study # 3』よりデュオ

振付：ウィリアム・フォーサイス 出演：安藤洋子、島地保武



©Ryu Endo

島地保武 Yasutake Shimji

DaBYゲストアーティスト

2006～15年ザ・フォーサイス・カンパニーに所属。酒井はなのユニットAltneu〈アルトノイ〉を結成。資生堂第七次椿会メンバーになりパフォーマンスに加えインスタレーション作品を展示。近年は、愛知県芸術劇場製作での環ROYと共作共演の『ありか』、フランス国立シャイヨー劇場のレジデンスプログラム(ファブリック・シャイヨー)に日本人で初めて選ばれ滞り制作をし『Oto no e』を創作。神奈川県芸術劇場KAAT制作で映像作家さわひらきと共に舞台作品『Silts』を創作しAltneuで出演など。

『瀕死の白鳥 その死の真相』

演出・振付：岡田利規 出演：酒井はな チェロ：四家卯大



©Tomohide Ikeya

酒井はな Hana Sakai

DaBYゲストアーティスト

アメリカのシアトルに生まれ、神奈川県鎌倉市で育つ。1979年からバレエを始め、畑佐俊明に師事。橘バレエ学校、牧阿佐美バレエ団に入団し、14歳でキュービット役に抜擢、18歳で主役デビュー。1997年新国立劇場バレエ団設立と同時に移籍、主役を務める。2007年劇団四季の『コンタクト』と09年『アンデルセン』にゲスト出演。2013年ユニットAltneu〈アルトノイ〉として、島地保武との共同創作を本格的に開始する。

1996年村松賞新人賞、舞踊評論家協会新人賞、1997年中川鋭之助賞、1998年芸術選奨文部大臣新人賞、2000年服部智恵子賞、2008年舞踊批評家協会賞、2009年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年ニムラ舞踊賞、2017年紫綬褒章、2021年第69回舞踊芸術賞など。



©Kikuko Usuyama

岡田利規 Toshiki Okada

DaBYゲストアーティスト

演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰

1973年横浜生まれ、熊本在住。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞。小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で第2回大江健三郎賞を受賞。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピレのレパートリー作品演出を4シーズンにわたって務め、20年『The Vacuum Cleaner』が、ドイツの演劇祭Theatertreffenの“注目すべき10作品”に選出。18年より『プラータナー：憑依のポートレート』をバンコク、パリ、東京にて上演。同作で第27回読売演劇大賞 選考委員特別賞を受賞。

**四家卯大 Udai Shika**

DaBYゲストアーティスト

ロック、ポップス、ジャズ、クラシック、即興音楽と多彩なジャンルで活躍する土俗的チェリスト。

日本の商業音楽界を支えるトップ・ストリングスアレンジャーのひとり。

近年では Bank Band、Mr.Children、ONE OK ROCKをはじめ、多数のロックバンドにストリングス担当として演奏&アレンジで参加。

2019年10月にはバッハの無伴奏チェロ組曲に挑戦した「たいようの谷」をリリース。オリジナル曲やクラシックに即興を取り入れた演奏スタイルも得意とする。

<http://udai66.com/>

『BLACK ROOM』

演出・振付・出演：中村恩恵

**中村恩恵 Megumi Nakamura**

DaBYゲストアーティスト

ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞受賞後渡欧。モンテカルロ・バレエ団等を経て、イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターに所属し、世界を牽引する振付作家達の創作に携わる。退団後は、キリアン作品のコーチも務め、パリ・オペラ座はじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。2007年より、活動拠点を日本に移し振付家としての活動を精力的に展開。Noism、Kバレエカンパニー、新国立劇場バレエ団等に作品提供するなど活躍の場を広げている。2022年よりDance Base Yokohamaのゲストアーティストとして後進の育成に携わる。舞踊批評家協会新人賞、芸術選奨文部科学大臣賞、服部智恵子賞、紫綬褒章等多数の受賞歴を持つ。

**串野真也 Masaya Kushino**

Istituto MARANGONI”ミラノ校、ファッションデザインマスターコースにてディプロマを取得。最先端技術や伝統技術などを駆使した、ファイナルデザインをテーマにした靴の作品や、科学技術を取り入れたアート作品などを世界に向けて発表している。

『never thought it would』

演出・振付・出演：鈴木竜

出演：柿崎麻莉子

ドラマトウルク：丹羽青人

**鈴木竜 Ryu Suzuki**

DaBYアソシエイトコレオグラファー

横浜に生まれ、山梨・和歌山・東京で育ち、英国ランペール・スクールで学ぶ。これまでにアクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ、フィリップ・デュクフレ、インバル・ピント/アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、平山素子、近藤良平、小尻健太、夏木マリなど国内外の作家による作品に多数出演。振付家としても横浜ダンスコレクション2017コンペティションIで「若手振付家のためのフランス大使館賞」などを史上初のトリプル受賞するなど大きな注目を集めており、作品は国内外で多数上演されている。



柿崎麻莉子 Mariko Kakizaki

DaBYレジデンスアーティスト

香川県出身、元新体操選手。

Batsheva ensemble Dance Company (2012-2014) に所属後、L-E-V Sharon Eyal|Gai Behar (2015-2021) に所属し、世界各国で公演・WS指導を行う。2011年韓国国際ダンスフェスティバル金賞、2013年度香川県文化芸術新人賞、2014年 Israel Jerusalem Dance Week Competition、2020年日本ダンスフォーラム賞、2021年日本ダンスフォーラム賞、など受賞。2021年カルチャーセンター「beq」を熊本にOPENし、文化や芸術をカジュアルに楽しめる場を目指して活動中。「GAMAMA」を主催し、オンラインWSなどを実施。Gaga指導者。



丹羽青人 Haruto Niwa

DaBYクリエイティブスタッフ

1996年、愛知県生まれ。国立音楽大学卒業。6歳からクラシックギターを学ぶ。11歳からソルフェージュを学ぶ。また幼少から多くのダンス作品の鑑賞や舞台作品、WSへの参加をする。音楽とダンスの関係について関心をもち、ニブロール、港大尋などの舞台芸術ワークショップに参加。現在、Dance Base Yokohamaに在籍し、ドラマトゥルクや制作として作品創作に携わり、身体表象による知的価値の創造を目指している。



渡辺慎也 Shinya Watanabe

1986年熊本県出身。

建築学科を卒業後、スタイリストの勝見宜人氏に師事。

独立後、ニューヨークへ留学し衣裳制作の基礎を学ぶ。

現在は、スタイリスト | 衣裳デザイナーとして、ジャンルを問わず活動している。



宮野健士郎 Kenshiro Miyano

建築家。北海道出身。2017年札幌市立大学デザイン学部、2019年東京工業大学大学院を修了。現在はオンデザインでパートナーとして活動している。大学在学中でのストリートダンスや舞台演劇の出演経験から「身体芸術的な美」に興味を持ち、集合住宅、店舗や会場構成の設計を通して人間の身体やふるまいから創造される空間を探る。

Dance Base Yokohama では、都市と身体の関係性を建築的視点で分析し、コンテンポラリーダンスを分野の異なる専門家と共につくりあげている。

『When will we ever learn?』

演出・振付・出演：鈴木竜 出演：飯田利奈子、柿崎麻莉子、中川賢（新潟公演のみ）、Ikuma Murakami
ドラマトゥルク：丹羽青人



飯田利奈子 Rinako Iida

6歳から岡本博雄バレエスクールでバレエを始める。
2010年より神戸女学院音楽学部 舞踊専攻にて島崎徹、Jan Nuyts、Graham Mckelvieに師事。
在学中に、コンテンポラリーダンス、モダンダンスを学ぶ。
2014年より新潟レジデンシャルダンスカンパニー Noism2に所属。
2018年より、オランダのNetherlands Dance Theater1に所属。
2021年に退団。



中川賢 Satoshi Nakagawa

6歳から現代舞踊を和田朝子に師事。
関東国際高校演劇科卒業。日本大学芸術学部演劇学科洋舞コース卒業。
2003年～2009年まで、現代舞踊公演『火の鳥』主演のほか『回転木馬』カーニバルボーイ役や『イーストウィックの魔女たち』マイケル役などミュージカルにも出演。2009年から日本初の公立劇場専属舞踊団新潟市りゅーとぴあ「Noism1」にて活動。2018年『ROMEO & JULIETS』ティボルト役で退団した。その後東京に戻り、平山素子、中村しんじ、川野眞子など作品に出演。ダンスのみならず様々なジャンルに挑戦していく。



Ikuma Murakami

1997年生まれ、兵庫県出身。
9歳からダンスを始め、様々なジャンルに触れる。
横浜ダンスコレクション2021 コンペティションII 新人振付家部門にてソロ作品『胎内回帰』を上演し、ベストダンサー賞を受賞。
キッズ時代から数々のコンテストや大会などで結果を残し、アジア大会では日本代表を務める。
現在、日本発世界初のプロダンスリーグ 第一生命 D.LEAGUE 21-22 SEASONに参加し、「LIFULL ALT-RHYTHM」として活動中。



唐津 絵理 Eri Karatsu

愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー

DaBYアーティスティックディレクター

お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業、同大学院人文科学研究科修了。舞台活動を経て、1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2000年に所属の愛知県文化情報センターで第1回アサヒ芸術賞受賞。2021年より現職。2010年～16年あいちトリエンナーレのキュレーター（パフォーミング・アーツ）。大規模な国際共同製作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。文化庁文化審議会文化政策部会委員、全国公立文化施設協会コーディネーター、企業の芸術文化財団審査委員、理事等の各種委員、ダンスコンクールの審査員、第65回舞踊学会大会実行委員長、大学非常勤講師等を歴任。講演会、執筆、アドバイザー等、日本の舞台芸術や劇場の環境整備のための様々な活動を行っている。著書に『身体の知性』等。

Dance Base Yokohama

ダンスを中心とするパフォーミングアーツ作品の創作を目的に、地域や文化芸術を愛する方のために開かれたダンスハウスとして2020年6月横浜を拠点に設立された。ワークショップや実験的なトライアウト公演の企画・運営、海外アーティストやカンパニー招聘、ダンスアーカイブ事業などを行い、振付家やダンサーのみならず、さまざまな分野のクリエイター、批評家、研究者、プロダクションスタッフ、そして観客の交流拠点をめざしている。

アーティスティックディレクターを唐津絵理（愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー）が務め、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等を展開する。

2020年「ダンスを社会にひらく」コンセプトが評価され、2020年度グッドデザイン賞受賞。2021年ロゴマークが東京TDC賞2021に入選。